

1. 活動にあたって

この単元では、実際にルールや道具をつくって、年齢・体格や運動能力の差に関係なく誰もが楽しめるようなスポーツづくりに挑戦することをねらっている。また、競技について他者に説明することを通じて、表現能力を高めることもねらいとする。

これまでみんなで楽しむためのルール作りやハンデづけを経験したことがある児童も多いと思われるが、この学習では異学年で楽しむためにどうしたらよいか繰り返し考え工夫する中で、他者のことや体や物の動きなど様々な要素について考えをめぐらすことができるようにしたい。

2. 展開例（全15時間）

時	活動	児童の反応	キーワード
1	縦割り班(異学年間)でみんながスポーツを楽しむためにはどうしたらいいか考える	<ul style="list-style-type: none"> これまでの縦割り班(異学年間)でやった遊びにはどんなものがあったかな? みんなが好きなドッジボールはどうか? でも、低学年は高学年の投げるボールが怖いかもな ●●●●はどうか? でも、低学年はできるかな 学年や人によってどんな違いがあるかな? 	課題発見 (他者を意識する)
2	【アイデア編】「スポーツ①」を見て、学年に関係なく楽しめるスポーツのアイデアを考える	<ul style="list-style-type: none"> 自分の住む地域では、どんな遊びやスポーツが盛んだったのかな? 学年によってボールの硬さを変えることで、力の強さに関係なく試合がやれていたな 低学年は満足そうだったけれど、高学年はハンデがあり過ぎて不満そうだったな どの学年も楽しめるようにするには、どんな内容でどんな工夫をすればいいのかな? 	見つける アイデアを考える
3	みんなで楽しめるスポーツの内容と工夫を考える	<ul style="list-style-type: none"> どんなスポーツが良いかな? 検索してみよう ○○○○の遊びなら、学年に関係なく楽しめるかな? ****のスポーツの場合、低学年でもできるようにするために、ルールを工夫するのはどうか? 縦割り班でやるのだから、高学年と低学年とで道具を変えずに一緒にやれるといいのかな? 学年によって道具を変えた方がいいのかな? 	調べる 考える
4 5 6	自分達で考えたスポーツを試して改善点を見つける	<ul style="list-style-type: none"> どうしたらみんなが楽しめるのかな 試しにやってみようよ 実際にやってみるとここが難しいな 	考える 試す トライアル&エラー
7	【改善+完成編】「スポーツ②」を見て、良くしていくための見直しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> 思う方向に飛ばないボールをつくったことで、力の強さは関係なくなっていたな うまくいかなくても楽しめるスポーツだったね 地域の名産をスポーツの道具に取り入れていたのがおもしろいね。私たちの地域の特産物は何だろう 自分たちも道具を作ってみてはどうだろう? 道具以外の工夫もできそう 	見つける 改善点を意識してアイデアを考える

時	活動	児童の反応	キーワード
8 〜 12	新しい道具を作って試してみる 試しながら改善点を見つける	<ul style="list-style-type: none"> どんな道具を作ったら面白いかな？ 道具によって高学年と低学年の差が小さくなると良いな これとこれを組み合わせたらどうかな？ なかなかうまくつくれないな。 試しながら改良しよう 点数やかけ声とか道具以外の工夫もしたいな 理科で使った人感センサーを取り入れてみたらどうかな？ 前よりも楽しめるようになったぞ 	<p>考える</p> <p>つくる</p> <p>トライアル&エラー</p>
13 〜 15	他学年へのルール説明の準備をする	<ul style="list-style-type: none"> みんなにルールを説明する方法を考えよう まず、いつ、どこで大会を行うのかを確認しておこう 動画を撮って見せるのはどうかな？ 音声入りプレゼンテーションをつくって、全校放送で紹介するのはどうかな？ ルールブックをつくるのはどうかな？ ルールブックはタブレットでつくることもできそうだね 	<p>伝える</p> <p>分かりやすく伝える方法を考える</p>

3. 活動を行う際に留意したいこと

ルールや既存の道具を工夫してみても上手くいかなければ、自分達で道具を作ることを子どもたちには考えてみてほしい。そのためには、視聴のタイミングを考えて番組を活用したい。自分達で考えて作る道具は、試しながら改良することでより良いものになるので、試行錯誤のための時間を十分に設定したい。また、実際に道具を作製するのが難しい場合は、設計図やscratch等のプログラミングを使ってアイデアを形にさせることも考えられる。

4. 参考資料

- オリジナルのゆるスポーツを開発したい／世界ゆるスポーツ協会**
 一般社団法人世界ゆるスポーツ協会では、スポーツづくりの参考になる情報発信がされています。特に「学校関係者の方向け授業導入用資料」が授業づくりの参考になります。
- スポつく:スポーツ共創WEBSITE - スポーツはつくれる!**
 一般社団法人運動会協会でも、スポーツづくりの参考になる情報発信がされています。トップページにリンクのある「スポーツ共創ワークブック」が授業づくりの参考になります。
- 第3期スポーツ基本計画:スポーツ庁**
 スポーツ庁が2022年3月に策定した第3期「スポーツ基本計画」では、スポーツの「新たな3つの視点」として「スポーツをつくる／はぐくむ」、「あつまり、スポーツをともに行い、つながりを感じる」、「スポーツに誰もがアクセスできる」が掲げられており、「みんなが楽しめる新しいスポーツづくり」の活動はこの方向性に合致したものとと言えます。